

# ～若者・多世代が楽しめる街中空間づくりを目指して～

令和5年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：高校生（若者世代）とまちなかとの接点づくりから拓く地方小規模都市の機能と未来

研究代表者：総合政策学部 倉原宗孝

課題提案者：花巻市

研究メンバー：久保田謙一、新垣総子、小原紘（花巻市）

技術キーワード：高校生・若者、多世代、中心市街地、公共空間

## ▼研究の概要（背景・目標）

花巻市では、中心市街地内に高校・大学がなくいずれも郊外に位置し、商業的な面でも若者が訪れる機会は限られている。市では都市機能を集約しコンパクトなまちづくりを進めているが、インフラとしての都市機能にとどまらず都市のもつ「多様な人々が集い、出会い、交流する」というソフト面での機能を今後も維持し、魅力ある都市であることを目指している。今回、活力が弱まっている中心市街地空間の効果的な活用を目指して、地域関係者・各主体を中心に、若者世代も巻き込んだ社会実験を企画・計画・実施した。夏期3回にわたり、車を排除した中心市街地では飲食、アート、遊びなど様々な試みが行われた。ここでは若者世代をはじめ子どもからお年寄りまで、また地域内外の人たちが非日常的空間として中心市街地を楽しんだ。このことが日常の街中整備活用と若者をはじめとした多世代の交流に向かうことが今後目指される。

## ▼高校生・若者が集まる場と街中利用の思考

若者世代が集まれる場所が無いとされる街中だが状況を変えていこうとする試みもみられる。例えば「ゲストハウスmeinn花巻」は市街地の中で数少ない宿泊施設の一つだが、同時に1階フロアーは高校生をはじめ若者たちが自由に使える空間になっている。交流と共に新しい動きの拠点になりそうだ。近年、サードプレイスなど第三の居場所の重要性が社会的に問われているが、そのことを街中空間の再生、高校生・若者の交流・触発といった視点から見つめ取り組むことも有効ではないか。



## ▼既存施設・空間の活用思考

学生の視点から街中施設・空間の活用点検も行った。使い方次第で新しい物語を生み出せるポイントが多々存在し、その活かし方が期待される。



## ▼中心街（公共空間）活用実践



街中空間を自由に試してみようとする社会実験が地元関係者との検討を経て、7月23日、8月25～27日、9月24日の3回にかけて行われた。普段の車道空間において、店舗、遊び、芸術・芸能などが自由に繰り広げられた非日常の場面に多くの人で賑わった。また中心街に連続する街の中心となる公園の効果的活用も出来た。高校生・若者たちの協力も光った。

## ▼高校生・若者の独自の企画参加



ドーナツ・シャボン玉販売、ゲームコーナー等、高校生によるユニークなお店もイベントを彩るとともに賑わいに貢献していた。なによりこうした高校生・若者の存在する光景自体が街中空間に重要である。今回、イベントの企画当初からの参加は叶わなかったが、計画段階からの高校生・若者の参画が今後検討されている。



初夏の1回目の華やかなイベントに続き、2回目は簡易テントで宿泊、3回目は伝統工芸で夜を彩るなど各回趣向が凝らされた。中心街での賑わいは連続する公園やプロムナードにも広がりエリアとしての活用可能性が出てきた。

## ▼自立的持続展開を目指す

内容において成功を収めた実験だったが、行政事務局の支援に頼る場面も多かった。今後、その面も含めた自立展開を目指す。

【謝辞と今後へ】極めて多くの各人・各団体のご協力を頂いた。深く感謝するとともに今後も皆で協力しながら持続展開・拡大を目指したい。